

比較家族史学会

会報 比較家族史 16

事務局 〒113 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学社会科学研究所 利谷研究室

第一九回研究大会プログラム

日時 一九九一年六月三日(月)・四日(火)
場所 東京大学山上会館 大会議室・談話ホール
東京都文京区本郷七-3-1

主催 東京大学社会科学研究所

(TEL) 〇三―三八―二二―二二―一 連絡および問
合わせは内線四九六八 小谷 真男)

第一日(三日) 午前10時開会

◇会長挨拶

大竹 秀男

◇自由報告

・結婚年齢と出産年齢の変化―一八九〇―一九四〇年出生コウホートを中心にして―
10:10 ~ 10:50 司会 伊藤 達也
・漢族の民俗生殖観念と親子・出自
10:50 ~ 11:30 司会 植松 明石
・近代ドイツにおける親子関係と教育
―一八七八年強制教育法から一九〇〇年保護教育法への転換をめぐって―
11:30 ~ 12:10 司会 依田 精一

◇昼食(幹事会) 12:10 ~ 13:30

◇テーマ報告

・親と子に関する研究の現状と課題
清水 浩昭

―問題提起―

13:30 ~ 13:45

第二日(四日) 午前10時開始

◇テーマ報告

・社会学(日本) 10:00 ~ 10:35 渡辺 秀樹
・社会学(欧米) 10:35 ~ 11:10 老川 寛
・社会史学 11:10 ~ 11:45 宮坂 靖子

◇昼食 11:45 ~ 13:00

◇総会 13:00 ~ 13:30

◇テーマ報告

・文化人類学(中国) 13:30 ~ 14:05 植野 弘子
・文化人類学(韓国) 14:05 ~ 14:40 松本 誠
・年保護教育法への転換をめぐって
14:40 ~ 15:15 司会 清水 浩昭

◇休憩

◇討論 15:00 ~ 17:00

(運営委員) 清水浩昭(委員長)・有地亨・稲本洋之
助・植松明石・大藤修・明石一紀・山田昌弘

◇休憩

・古代史学 13:45 ~ 14:20 西野悠紀子
・中世史学 14:20 ~ 14:55 鈴木 国弘
・近世史学 15:10 ~ 15:45 大藤 修
・民俗学 15:45 ~ 16:20 飯島 吉晴
・家族法(ソ連) 16:20 ~ 16:55 稲子 宣子

◇懇親会(詳細は二ページに掲載)

司会 明石 一紀

親と子に関する研究の

現状と課題 — 問題提起 —

清水 浩昭

比較家族史学会は、これまで「日本における家族研究の現状と問題点」(第三回研究懇話会・一九八三年五月「共通テーマをかがけて開催された、はじめての研究大会」)、「社会学・社会人類学・民俗学における家族研究の現状と課題」(第四回研究懇話会・一九八三年一〇月)、「家と祖先祭祀」(第五回研究大会・一九八四年六月)、「親族関係の擬制—養子を中心として—」(第六回研究大会・一九八四年一月)、「『氏』をめぐる諸問題」(第七回研究大会・一九八五年六月)、「家と女性」(第八回研究大会・一九八五年一月)、「離婚」(第九回研究大会・一九八六年六月)、「性と結婚」(第一〇回研究大会・一九八六年一月)、「女性と財産」(第一一回研究大会・一九八七年六月)、「へおい」の比較家族史」(第一二回研究大会・一九八七年一月)、「家父長制をめぐる諸問題」(第一三回研究大会・一九八八年六月)、「家族と教育」(第一四回研究大会・一九八八年一月)、「家族と墓」(第一五回研究大会・一九八九年六月)、「女性をめぐる縁組」(第一七・一八回研究大会・一九九〇年六月、一九九〇年一月)を共通テーマとして討論することになった。

家族に関する研究領域を大まかに区分すると、

家族とそれをとりまく諸集団(親族、地域、民族、国家等)との関係に関する研究と、家族内の人間関係(夫婦、親子、兄弟姉妹等)に関する研究とになろう。このような大まかな区分に従うとすれば、今回のテーマは、家族内の人間関係のうち、親と子をめぐる問題を中心にして討論することになる。

本学会では、この「親と子」をめぐる問題を二、三回討論することが予定されている。そこで、第一九回研究大会では、その手始めとして各学問分野における研究の現状と課題を発表・討論するとともに、それぞれの分野における研究の到達点を会員が共有することを最大の目標とした。

こうした初年度の研究成果(研究財産の共有)をふまえて、次年度以降、「親と子」をめぐる研究課題のなかで、各学問分野に共通する一、二の課題をとりあげ、その課題をめぐる討論を深めて行くという方式をとることにした。このような方式をとったのは、本学会が、様々な学問を専攻する会員から成り立っていることとメリットを生かす一つの、しかし、きわめて生産的な道であると考えたからにはかならない。このような基本的な考え方に基づいて、第一九回研究大会は、つぎのような方針で臨むことにした。

一、今までの研究大会で扱われてきた「親と子」にかかわる諸問題(親子、祖先祭祀、家父長制等)は、できるだけさけるようにする。

二、研究の現状と課題は、時間軸(主に古代史学、中世史学、近世史学、社会史学)と空間軸(主に社会学、家族法、文化人類学、民俗学)との二つの軸で整理する。

研究大会に関連する連絡事項

1 大会期間は、六月三日(月)、四日(火)と従来と曜日が異なっておりますので、くれぐれもおまちがえのないよう、お気をつけください。

2 東京大学(山上会館)への交通機関
同封別紙「東京大学への経路」と「東京大学山上会館位置図」をご参照ください。

3 昼食について
今回はとくに弁当の予約をおこないません。山上会館地下食堂、学内の食堂、大学近辺の一般の食堂などをご利用ください。研究大会当日大学周辺の食堂について、地図を配付する予定です。

4 懇親会について
時間 研究大会初日(三日)午後五時より
会場 山上会館地下「御殿」
費用 四〇〇〇円程度

懇親会へ出席される方は、同封の出欠の葉書に○をおつけください。なお、出席の連絡をされて、当日欠席されますと、会場校にたいへんご迷惑をおかけすることになります。懇親会の出席マークは、慎重にご記入ください。

事務局からのお知らせ

い。

出欠の通知に変更がある場合には、できるだけ早く会場校（小谷氏）にご連絡くださいますようお願い申し上げます。

5 報告者の配付資料（レジュメ）について

研究大会報告の先生は、恐縮ながら今回は各自報告資料をご用意くださいますようお願いいたします。用意する部数は、7の出欠の葉書で五月二十五日ごろには出席数がほぼわかると思いますので、小谷真男氏に連絡をお願いいたします。

なお研究大会当日は、コピー機は有料で、一枚一〇円です。人手もおおくはありませんので若干多めにご用意いただけたら幸いです。

6 研究大会についてのお問い合わせ先

① 会場校関係

小谷真男（東京大学社会科学研究所）

自宅

社研 ○三―三八―二―二―二―一

内線四九六八

② 運営委員会関係

清水浩昭（厚生省人口問題研究所）

自宅

人口研 ○三―三五〇三―一七七一

内線三六五九

7 出欠の葉書について

研究大会への出欠のご連絡は、同封の葉書にて五月二〇日までに（必着）お願いいたします。

1 会費の納入について

振替用紙を同封しましたので、一九九一年度分会費（年三〇〇〇円）の納入をよろしくお願いいたします。なお前年度分までの会費未納のかたには、未納の内訳を書いたものも同封してあります。

2 住所・所属等の変更について

住所・所属・電話番号などに変更のあった会員は、学会事務局もしくは左の住所宛にその旨お忘れなくご連絡ください。

牧田 勲

3 十周年記念事業の事務について

十周年記念事業の事務につきましては、森謙二先生に担当していただくことになりました。事典編集の件などについてのお問い合わせは、今後森先生にお願いいたします。

森謙二

4 学術会議の推薦人について

比較家族史学会の推薦人は、次のように決定されました。

○基礎法学 水林彪・江守五夫

○歴史学 義江彰夫

5 『比較家族史研究』・『シリーズ家族史』の販売促進について

過日手紙でお知らせしましたように、学会成果として刊行しているこれらの書籍について、今後できるだけ大学図書館や研究室等へ入れてくださいますようお願いいたします。

幹事会 議事録

日時 一九九〇年一月二三日・二四日
場所 大阪ガーデンパレス・摂南大学

(1) 報告事項

1 『比較家族史研究』第五号刊行の進捗状況報告（奥山恭子氏）。本年一月発送済み。

2 『シリーズ家族史』第一期五巻以降刊行の進捗状況。
・五巻「離婚」未入稿あり。
・六巻「女性と財産」未入稿あり。

3 『シリーズ家族史』第二期刊行について
早大出版部との交渉経過。編集費支払いの件で交渉中。

4 『シリーズ家族史』第二期一～四巻刊行の進捗状況と刊行についての諸問題

・シリーズの名称は、正岡・大竹先生に任ずる。
・装丁は第一期と別にする。サイズは同じ。

・校正に関しては執筆者は再校まで。出版社・編集者の方で三校をおこなう。

・第二期は、第一期と別企画なので、第二期を先に刊行することになってよい。

・一卷「家と家父長制」早大出版部に原稿をわたす。

・二巻「家と教育」一二月半ばには原稿がそろふ。

5 第一期「墓」、四巻「家と屋敷地」編集集中。第一九回研究大会について

会場校は、東大社研。運営委員はおって決定する。(『会報』一頁を参照のこと)

6 学術会議関連事項

(2) 審議事項

1 新入会員の承認

2 大会運営費の補助について

来年度以降大会運営にあたる会場校には学会より一律に五万円補助する。非会員参加費は、当番校の裁量とする。

3 『シリーズ家族史』第二期五巻「女性をめぐる縁組」の編集責任者の決定

田中真砂子・奥山恭子・大口勇次郎氏

4 『比較家族史』の定価の変更について

製本代・校正費の上昇のため。詳細については、前号会報をご参照ください。

5 『比較家族史』販売促進のためのダイレクト・メールについて

費用の割に効果は疑問、再考する。関係

学会の会場での販売、会員の研究室にそろえてもらうことなどを考える。

6 第二〇回研究大会について

関西の大学に交渉する。秋の学会は、推薦入試や他の学会と期日が重複するなど、出席者が少なく取り止めることを考えてもよいのではないかとの提案あり。今後の検討課題とする。(その後、第二〇回大会は武庫川女子大学―兵庫県―で行われることに決定しました。)

7 一〇周年記念事業について

アンケートの結果を尊重する。

① 事業内容

(a) 家族に関する事典の刊行

(b) 市民参加によるシンポジウムの開催

② 実行委員

(a) 事典の編集・刊行

大竹秀男(会長)・永原慶二(前会長)・有地亨(副会長)・利谷信義(副会長)

黒木三郎・塙陽子(家族法)

江守五夫・鎌田浩(法社会学・法制史)

田端泰子(日本史)

住谷一彦・秀村選三(社会経済史)

長谷川善計・正岡寛司(社会学)

村武精一・清水昭俊(社会人類学)

久武綾子(家政学・教育学)

竹田旦・福田アジオ(民俗学)

藤井正雄(宗教学)

・以上の実行委員の下に各学問分野ごとに何人かの委員をおいて、具体的項目・執筆者等を決定する。

(b) 市民シンポジウムの開催

〔東京〕石川利夫・大口勇次郎・清水浩

昭・渡辺欣雄・野村育世・山田昌弘

〔関西〕井ヶ田良治・山中永之佑・地主

喬・上野千鶴子・波平恵美子・栗原弘

・テーマは委員で選ぶ。

・シンポジウムは当番校ではなく学会としておこなう。

・新聞社とタイ・アップすることも考える。

③ 費用

・一〇周年記念事業の年度のみ会費を別途徴収してもよいのではないか。

・賛助会員をもとめる。

・企業よりの寄付をもとめる(免税措置も)。

8 その他

① 学術会議推薦人の件

(『会報』三ページ参照)

② 峰岸純夫氏より幹事を辞任したい旨、連絡があり、承認。

総会 議事録

日時 一九九〇年十一月二五日

場所 摂南大学

1 新入会員の紹介

2 次回研究大会について

3 『比較家族史研究』の刊行について

4 『シリーズ家族史』第一期・第二期の刊行について

5 学術会議関連事項の報告

6 一〇周年記念事業について

7 その他

① 学会開催校への五万円補助の件

② 学会参加費千円、非会員参加費は当番校の裁量とすること。

③ 高木侃氏より満徳寺資料館建設に関する学会の協力にたいしお礼の挨拶

住所変更（所属変更も含む）

浅倉 有子 日本近世史

稲本洋之助 山形県立米沢女子短期大学
法律学

遠藤 央 東京大学社会科学研究所
文化人類学

奥田 都子（旧姓 犬塚）鳥取大学
家族関係学

許 末恵 聖セシリア女子短期大学
家族法（民法）

工藤 忠雄 神奈川県工科大学
憲法・比較憲法論

小玉 亮子（旧姓 河野）日本大学山形高校
西洋教育史

小馬 徹 学大学院
社会人類学
東京大

神奈川大学
武田佐知子 日本古代史

竹安 栄子 大阪外国語大学
家族社会学・農村社会学

田里 修 追手門学院大学
法社会学

野村 明代 沖縄大学・琉球大学
家族社会学・思想史

林 研三 の水女子大学女性文化研究センター
法社会学

札幌大

原田 俊彦 学
ローマ法

堀江 俊一 早稲田大学
社会人類学

園田学園大

新入会員

東海林邦彦 民法

北海道

大学
小池 誠 社会人類学

東京都立大学（院生）
村上 忠喜 民俗学

学
牟田 和恵 社会学

甲南女子大学
村上 一博 日本法制史

日本文理

大学
森 明子 文化人類学

国立民族学博物館

所属変更

天野 武 帝京大学
江守 五夫 帝京大学
竹田 旦 創価大学

お詫びと訂正

『比較家族史研究』の書評について、植野弘子先生より次のような「お詫びと訂正」がありました。

『比較家族史研究』第五号

書評 和田正平著『性と結婚の民族学』一二三頁 下段 右から九行目

“『花婿をエナンガルといい』とあるが”の箇所は評者の誤読で、本書には「花婿はエナンガン」と正確に記述されております。この点に

関する評者の批判は不適切でしたので、ここに
お詫びし、書評中の当該の一文を削除させていただきます。

(評者・植野弘子)

日本学術会議歴史学研究

連絡委員会より

昨年一二月一二日付けの手紙で本学会に以下のような連絡がありましたので、おしらせいたします。

日本学術会議歴史学研究連絡委員会は、去る六月一六日、学問、思想、言論の自由が暴力によって威嚇される事態を憂慮し、日本学術会議第一部に要望書を提出致しました。その結果、一九九〇年一〇月一七日の日本学術会議第一一〇総会において、第一部の報告を受け、要望書の趣旨が確認されました。
要望書および、総会議事録の当該部分のコピーを同封にてお送り申しあげます。会誌などを通じて広く知らせて頂ければ幸いです。

日本学術会議歴史学研究連絡委員会

委員長 弓削 達

弓削達氏宅への銃撃事件に関する
日本学術会議歴史学研究連絡委員
会よりの要望書

さる四月二二日深夜、会員弓削達氏宅に銃弾がうちこまれる事件が発生した。私達の大嘗祭に関する意見は様々であるが、学問、思想、言論の自由が暴力によって威嚇・圧殺されようとする行為は、決して許されるべきことではなく、極めて遺憾なことである。特に私達は学問・思想・言論の自由と多様性を生命とする歴史学者として、今回の事件に対し強く抗議するとともに、再発の防止について関係機関が最善の努力を傾けられるよう、日本学術会議の名において何らかの処置を速やかに取られることを要望する。

一九九〇年六月一六日

日本学術会議
歴史学研究連絡委員会

日本学術会議

第一部長 肥田野 直 殿

(文中算用数字は漢数字に改めました。総会議事録は省略。)